

## 主題：雅歌に描写されているような勝利の生活

メッセージ 15

### 神の享受のために携え上げられるよう自らを準備する

聖書：雅 8:1-5 前半、啓 12:5, 7-11、14:1, 4 後半、創 5:22-24、ヘブル 11:5-6

I. 携え上げはおもにわたしたちの享受のためではなく、神の享受のためです。わたしたちは携え上げられるよう自らを準備する必要があります。それは自分の幸いのためではなく、神の目的を成就するためです——啓 12:5, 7-11、14:1, 4 後半、19:7：

A. 携え上げの意義は、主の臨在の中に取り入れることです。主の臨在の中に取り入れるためには、今日、彼の臨在の中において、主との接触の中で近づき親密になることを学び、主の目的のために主を愛し尊ぶ心を持たなければなりません——Ⅱ コリント 2:10、4:6-7、Ⅰ ヨハネ 1:3。

B. 勝利者の携え上げは、敵を打ち破り神を満足させることです：

1. 神にはわたしたちが彼と彼の御座に携え上げられ、捕らえられて、敵と戦うという必要があります——啓 12:5, 7-11、エペソ 3:16-17、6:10-11, 17-18。

2. 主は男の子が主の敵と戦うことを必要としますが、それにもまして彼の満足のための初穂を必要とします——14:1, 4 後半、参照、ローマ 8:23, 11, 14, 16, 26-27。

3. 初穂は神の作物の中で最も早く円熟に達する者です——コロサイ 2:19、ヘブル 5:14—6:1 前半、エペソ 4:13、ピリピ 3:15、参照、ルカ 21:36。

4. 初穂はシオンの神の家に携え上げられ、神にとって新鮮な享受となり、彼を満足させます——出 23:19 前半、レビ 23:10。

II. キリストの愛する者は命において成長し造り変えられることを通して、命における円熟となり、彼女の望みは体の贖いを通して携え上げられることです——雅 8:1-5 前半、ヘブル 5:14-6:1 前半、ピリピ 3:21、Ⅰ ヨハネ 3:2-3：

A. 聖徒たちの携え上げは神の有機的な救いの究極的に完成する段階であり、それによってわたしたちと主は、神の証印を押す霊による神聖な要素の浸透を通して同じになります——エペソ 1:13-14、4:30、ローマ 8:29。

B. 円熟は造り変えの最後の段階、命の豊満であり、キリストの継続的な牧養を通してわたしたちの日々の最後に到達します——「この日までわたしの全生涯にわたってわたしを牧された神よ」——創 48:15 後半、3、17:1。

C. 円熟した信者は造り変えの「オープン」の中で、神があわれみ深くすべてに十分であって、あらゆる種類の状況の中で自分の必要に応じることを学びました。彼の信頼と安息は完全に、彼のすべてに十分な神のあわれみにあり、もはや自分自身や自分の能力にありません——ローマ 9:11-13, 16, 21, 23、哀 3:21-24、参照、レビ 2:4。

III. エノクにおいて携え上げを最初に述べることは、携え上げの原則を確立します。わたしたちが携え上げられることは、神と共に歩むことによって、神聖な命において円熟することにかかっています——創 5:22-24、ヘブル 11:5-6：

A. わたしたちを地的な領域から完全に救い出す携え上げは、突然起こるのではなく、主との段階ごとの歩みの結果です。携え上げは主との歩みの最後の段階です——雅 8:1-5 前半、ガラテヤ 5:16, 25、ピリピ 3:14。

- B. 神と共に歩むとは、神との習慣的な交わりを持ち、彼との恒常的な接触の中において、彼の恒常的な注入の下にいて、彼の建造のために彼と共に働くことです—— I ヨハネ 1:3. 創 6:8-9, 13-14。
- C. 神と共に歩むとは神を越えないこと、出しゃばらないこと、自分の観念や願望にしたがって事を行なわないこと、時代の潮流にしたがって事を行なわないこと、神なしに何も行なわないことです——出25:40. 詩19:12-13. ルカ24:15. 参照、ヨシュア9:14後半。
- D. 神と共に歩むとは、彼をわたしたちの中心またすべてとすること、神にしたがって神と共に、彼の啓示と導きにしたがって生き、事を行なうこと、彼と共にあらゆることを行なうことです——ローマ 8:4, 13-14. ガラテヤ 2:2 前半. II コリント 5:14-15。
- E. 神と共に歩むとは、わたしたちが自分であること、できることによってではなく、朽ちない命、すなわちキリストご自身によって生きることを意味します——4, 9, 14-15, 20節。
- F. 神と共に歩むことは、わたしたちの自己と、わたしたちの自己のものであるすべてを否み、彼と一になることを暗示します。それはわたしたちが自分を彼にささげ、彼に委ね、彼に導いていただくことを暗示します——マタイ16:24-25. II コリント2:13-14. 5:14-15。
- G. 神と共に歩むとは信仰によって歩むことです—— 7 節. ヘブル 11:1. 12:1-2 前半 :
1. 信仰は神が「である」というのを信じることです—— 11:5-6. II コリント 4:13, 18 :
    - a. 神が「である」というのを信じることは自己を否むことです。全宇宙で彼はあり、わたしたちはみな無です——ルカ 9:23. 創 5:24. ヘブル 11:6. ガラテヤ 6:3.
    - b. これが信仰です——「ああ、何という喜び。何も持たず、無であり、栄光の中の生けるキリスト以外何も見ず、地上で彼の權益のほか何も注意しないことの喜び」—— J・N・ダービー。
  2. 信仰は、神が彼を熱心に尋ね求める者たちに報いる方であることを信じることです——ヘブル 11:6. 創 15:1. ピリピ 3:8, 14 :
    - a. エノクの褒賞は最高の程度の命でした。すなわち死から免れることです——ヘブル 11:5 前半. II コリント 5:4. ローマ 8:6, 10-11. 5:17.
    - b. 主は報いる方であり、わたしたちは彼を追い求める者となる必要があります——詩 27:4, 8. 42:1-2. 43:4. 73:25. 119:2, 10. 歴代下 26:5.
  3. 信仰は神の言葉を信じることです——ルカ 1:38. ローマ 10:17. 参照、 I テサロニケ 5:23 :
    - a. エノクは六十五年生きたとき息子を持ち、彼にメトセラという名を与えました（創 5:21）。この名には予言的な意義があり、「彼が死ぬとき、それは遣わされる」を意味します。
    - b. エノクはその子をメトセラと名づけて、メトセラが死んだ年に洪水の裁きが来ることを予言しました。それはノアの六百年でした—— 7:6, 11. 5:25-29 前半。
    - c. エノクは神の啓示を受け、神聖なみこころの靈感を受けて、人類の不敬虔な世代全体に対する来たるべき裁きを知りました——ユダ 14-15 節。
    - d. その後、日夜エノクはその予言の成就を期待し、その期待は彼を動機づけて、時代の潮流に従わないで神と共に歩み、敬虔で聖なる生活をして、神によって携え上げられ、死を免れるようにしました—— II ペテロ 3:10-12. ヘブル 11:5。